

第 22 回特別支援教育公開セミナー

講演：就学前から継続した小学校における行動支援システムの開発

講師：平澤 紀子 先生

(岐阜大学大学院教育学研究科教授・岐阜大学教育学部附属特別支援教育センター長)

令和 7 年 3 月 8 日 (土), オンライン上で公開セミナーを実施し, 教育関係者や医療・心理・福祉等関連専門職, 及び学生等 43 名の参加者を得て盛会のうちに終了しました。

以下に, 講演資料を掲載します。

2025年3月8日 (土) 令和6年度福岡教育大学第22回特別支援教育公開セミナー資料

就学前から継続した小学校における行動支援システムの開発

岐阜大学 平澤紀子
hirasawa.noriko.stef.gifu-u.ac.jp

NAKASE KENJI STRATEGICAL
東海国立
大学機構 GIFU UNIVERSITY

今日の課題

- 特別な支援を要する子どもについては、発達や学びの連続性を保障するために、個別的教育支援計画を通じた一貫した支援が求められている
- 通常の学級に学習面、行動面に著しい困難を示す子ども8.8%、行動面で著しい困難を示す子ども4.7%、個別的教育支援計画の作成18.7% (文部科学省, 2022)
- 特別支援教育に関する経験を有しない教員は、小85.5%、中63.6%、高92.9% (文部科学省, 2024)
- ◆ 教師の見通しを高め、子どもの安心した学校生活を支えるために、有効な支援情報を引き続き、活用することが重要
- ◆ SDGs の観点から、個々の担当者に左右されない取組

就学前から継続した行動支援システム

- 幼児支援教室を拠点に発達障害支援を展開
- 行動面の困難のある子どもの支援は課題
- 大学が応用行動分析学の知見を提供
- 大学、教育委員会、支援センターが連携して、個別的教育支援計画を通して、就学前から小学校に有効な支援情報をつなぎ、活用するためのシステムづくり

有効な支援情報のつなぎと活用

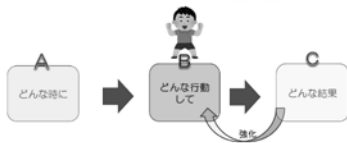
<大学>

- ・幼児支援教室の支援効果 (平澤他, 2018)
- ・引き継ぎ実態・入学対応効果 (平澤他, 2018)
- ・ベア研修 (平澤, 2018)
- ・リーダー研修 (平澤他, 2021)

<地域>

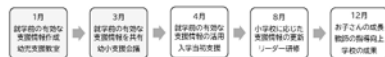
- ・幼児支援教室が支援センターが支援センターが教育委員会が
- ・保護者説明・引き継ぎシート作成・全小調査・校長会等説明
- ・校長会説明・幼小支援会議・校長会説明・ワークショップ
- ・校長会等説明・学校支援

有効な支援情報



- 行動理論を基に、お子さんの行動を理解し、良さを伸ばす支援情報
- 私たちの行動は、どんな時に、どんな行動して、どんな結果が生じるかにより変わる
- お子さんの今の姿はこれまでの学習の成果、今からの学習により良さを発揮できる

就学前の有効な支援情報を明らかにする



- 引き継ぎシート
➢ お子さんの得意・好きなこと、成長していること、こうすると良さを発揮できる！
- お子さんの行動の理解
➢ プレイルームで走り回る
➢ これまで友達に関心がなかった→友達への関心ができた
➢ プレイルームで、走り回ると、周囲がかかわる
- お子さんの育ちを応援
➢ 友達にシールを配る役割をつくる、周囲がかかわる

引き継ぎシート

当日提示

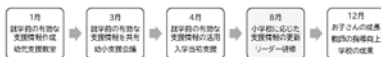
参考
平塚紀子・坂本陽子(2016)幼稚園児における行動問題とオーストラリアの児童福祉サービスの関係に関する調査研究、
井上隆幸(2012)施設入居児童の行動問題と支援手段に関する研究、厚生労働科学研究費補助金児童福祉政策研究事業、平成23年度前期分研究費助成事業、平成23年度前期分研究費助成事業。

就学前の支援情報を入学時支援に活用する



- 入学当初のお子さんの困りが生じやすい場面で応援を実施
➢ 行事場面、初めてのことをする時に、嫌がる
- お子さんの行動の理解と応援
➢ 慣れていることはできる→見通しがもてない、うまくしたい
➢ 嫌がると、それを避けることができる
➢ 入学式は、事前にどんな場所で何をやるか個別に体験
➢ はじめてのこと、だいじょうぶだったね！

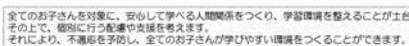
小学校に応じた有効な支援情報を明らかにする



- リーダー研修：支援の中心となる特別支援教育コーディネーター
➢ お子さんの育ちと今の姿の理解、応援の考え方と方法を学ぶ
- 担任の先生と行動支援計画を作成する
- 支援を見届け、お子さんの成長を見届ける
- 保護者と成長を共有する
- 次年度に引き継ぐ

お子さんの姿から

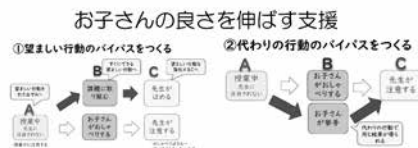
- 良好
• 1学期の支援のたまものです。どのような支援が有効なのかを明確にし、2学期も継続したり、次年度に引き継いでください。
- 気になる・困った行動がみられる
• 小学校の活動やかかわりの中で、新たな困りが生じています。アセスメントをもとに、困りを理解し、支援を考えましょう。
- して欲しいことをしない
授業中に、先生の話を聞かない
→話の内容がわからない
→わかっていても、うまくできない
●わかる、できる状況をつくる
- して欲しくないことをする
授業中に、関係のないおしゃべりをする
→おしゃべりをする、わからない授業を避けられる
先生が注意することで注目が見られる
●よい行動で注目される場面をつくる、代わりの行動で注目が見られる



- ・機能的アセスメントは行動理論を基に、お子さんの行動を理解する行動観察方法
- ・困った行動として現れているお子さんの困りを理解します
- ・ABCからお子さんの行動を理解し、良さを伸ばす支援を考えます

	固った行動として表れる行動の態様(機能)	良さを伸ばす役割
注目運動	注目されている状態、その行動をする、注目やなかの注目感も自分の得られる	・望ましい行動に注目しやすい状況をつくる ・望ましい行動に力かける
遠隔の運動	相手(相手)にぶつかる状況で、その行動をするにそれより遠くへ送られる	・様々な状況や状況に組みあがれたい状況に いざい組みあがれる
物との運動	物(人)物やしたいこととある状況で、その行動をするにそれと得られる	・望ましい行動で物や、人、いざい状況をつくる ・望ましい行動にそれと必要に促される
感覚刺激の運動	するにそれと状況で、その行動をするに感覚刺激の得られる	・することで促される ・感覚刺激が得られる行動の行動をする

참고 문헌: O'Neill et al. (1997). *Functional assessment and program development for problem behavior: A practical handbook*. Brooks/Cole Publishing Co.



参考 ① Neill et al. (1997). *Functional assessment and program development for problem behavior: A practical handbook*. Brooks/Cole Publishing Co.

①お子さんへの対応
困った行動をした時は、「だめ」だけでなく、「すべきこと」を伝え、取り直してもらう姿や取り組みをほめる

②周囲のお子さんへの対応
周囲の評価が低下しないように、お子さんが頑張っていることを伝える

③保護者への対応
お子さんを応援できるように、頑張りや連絡帳で伝え、ほめてもらう

④学校の保護者への対応
どのお子さんも大切にすることを伝える

- ・発達障害児者の行動問題に対しては、機能的アセスメントに基づく支援が有効 (Jeong & Copeland, 2020)

- ・米国では、障害のある個人教育法（IDEA）に位置づけられ、教師が個別教育計画（IEP）に機能的アセスメントを活用するための研究が進められている
- ・行動分析の専門家ではない教師が機能的アセスメントに基づく支援計画を作成するために
 - 教師を対象とした基本研修：1回1時間・4週の研修プログラム
 - 研修を受けた教師が学校チームで作成できる（行動支援経験者）
- 短期間の研修で、研修を受けた教師が研修を受けていない学校チームで作成できるようにしたい

- ・機能的アセスメントに基づく支援計画には4つのプロセスがある
- ・それを研修者が習得し、学校チームで作成するには
教師の知識やスキルを助けるシステムがあればよいのでは？
- ・対象児の行動情報を入力すると、三項随伴性、機能推定、機能に基づく支援方法が対応し、支援方法が提案されるシステムを開発



JSPS 科研費22K02742 助成

① 政治的・経済的・社会的な発展 ② 文化の発展 ③ 教育の発展 ④ 科学技術の発展 ⑤ 環境の発展 ⑥ 人口の発展 ⑦ 生活の発展 ⑧ 健康の発展 ⑨ 安全の発展 ⑩ 平和の発展	発展政策 ① 経済的発展政策 ② 社会的発展政策 ③ 文化的発展政策 ④ 科学的発展政策 ⑤ 環境発展政策 ⑥ 人口発展政策 ⑦ 生活発展政策 ⑧ 健康発展政策 ⑨ 安全発展政策 ⑩ 平和発展政策
---	---

- ・お子さんの行動情報を入力すると、有効な支援が提案される
- ・先生方で、お子さんに合うように具体化
- ・支援を行い、成長を見届け、喜ぶ

参考文献 1) 尾形浩二・坂下光次郎(2006) 機能的アセスメントに基づく行動支援計画作成のためのアシストシステムの開発：行動分析学研究, 36, 126-138.
2) 尾形浩二(2012) 発達行動障害者の行動支援に関する研究。厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業。平成23年度地域社会研究推進費。
3) Naill et al. (1997). Functional assessment and error development for problem behavior: A practical handbook. Brooks/Cole Publishing Co.

リーダー研修

- ・特別支援教育コーディネーター 10名
- ・1回3時間の講義と演習（行動理論、システム活用方法、研修非参加者との作成方法）
 - ・研修者の機能に基づく支援方法に関する知識が向上（BSPKA得点）
 - ・研修者が研修を受けていない担任と一定の質を満たす支援計画を作成できた

経緯	先行事業	行動	結果事業	機能	研修で作成	9月支援方法	12月支援方法
1	AC	課題が促される時	机、床におそべる	課題をしなくて済む	遠隔	・わかる、できる課題から開始 ・クラス全体の説明と個別指示（対象児をモデルに教える） ・取組をはめる	・わかる、できる課題から開始（対象児が漢字クイズを出す）
2	CC	初めてのことをする時	反抗する	課題をしなくて済む	遠隔	・初めてのことをする際に、事前に体験内容を含えたりする ●事前計画に個別表で（親の意向に個別表で取組） ・取組をはめる	・初めてのことをする際に、事前に体験内容を含えたりする （自分で個別表を確認） ・取組をはめる

経緯：特別支援教育コーディネーターと担任 特々の経験、教職、個別的教育支援計画、特別支援学校教諭免許
●専門家による助言 経験によらず支援計画を作成できたが、具体化や妥当化には経験の影響がみられる

システムの使用評価

- ・小学校10校の特別支援教育コーディネーターと担任のペア10組
- ・1回2時間程の講義と演習（行動理論、システム活用方法）

表1 アシストシステムの試用評価(N=10)

項目	評価
①行動理論や機能的アセスメントの理解を助けた	100
②対象児の行動問題の状況が明確になった	80
③対象児の支援を考える手がかりになった	100
④作成した支援計画の実行により対象児が寛容した	80
⑤アシストシステムへの記録入力負担がない	70
⑥入力した記録を用いて支援方法を検討した	50
⑦アシストシステムを使用した行動支援計画の作成は負担がない	100
⑧アシストシステムは個別の教育支援計画に役立つ	100

表中の数値は回答数に対する「当てはまる」「少し当てはまる」の割合%

平澤・菅竹・松下(2024)

小学校における支援状況

- ・2022年度から2024年度 N=67 個別的な相談支援は岐阜市総合支援センターが対応

当日提示

特別な支援を要するお子さんの発達や学びの連続性を保障するシステム

- ・お子さんの育ちを理解し、良さを発揮するための支援情報が重要
- ・その支援情報を就学前から小学校に継続するための仕組みが必要
- ・教師の経験等によらない研修と質を確保するICT活用が有効
- ・データ連携とフィードバックは課題

参考情報

- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）
- ・「子どもと保護者の関係性」に関する研究の重要性について
（平澤、2023）

